

平成30年8月5日
学識経験者 細川 敬雄

はじめに

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会が実施した事業の執行の状況について点検及び評価を行い、議会に提出するとともに市民に公表するための報告書です。阿波市では、平成23年度から開始した第1次教育振興計画（前期計画）を平成27年度に5年目の検証・見直しを行い、平成28年3月に第1次教育振興計画（後期計画）を策定しました。平成29年度は後期計画実施の2年目となります。平成29年度の事業について、学校現場で勤務した経験と阿波市民としての立場から意見を述べさせていただきたいと思えます。

1 点検・評価について

阿波市教育委員会が平成29年度に実施した「阿波市第1次教育振興計画(後期計画)」の【5年間の主要事業】73事業についての評価をします。各事業ごとに1枚の評価シートが作成され、PDCAサイクルで評価できるようになっていて、非常に端的でわかりやすくまとめられていました。ただ、評価の視点が客観的な評価となっているかがわかりにくいように感じました。教育的なことは数字として表しにくいのですが、平成32年度(2020年度)の目標が数値で示されていますので、できるだけ目標値や成果、結果などが数字で表せるようになると説得力があると感じます。

2 主要事業について

(1) 学校教育関係

学校教育関係として27の事業を実施していますが、すべてがAまたはBという総合評価で一定の成果を上げていると感じました。

① 幼児教育

幼稚園、認定こども園での英語活動が実施されたのは時代のニーズに合い、社会教育の国際理解教育につながると考えます。

平成29年度に阿波市に現在ある保育所と幼稚園を一体化した認定こども園への移行について示されました。平成32年度(2020年度)開設に向けて在園の保護者だけでなく、市民全体にもわかりやすく丁寧な説明や進捗状況を報告してほしいと思えます。また、0歳から5歳の発達段階でどのように教育活動を構築していくのか既存の認定こども園の実践を参考として阿波市のカリキュラムを構築してほしいと思えます。そのことが子育てしやすい町づくりの第1歩になると考えます。

② 学校教育

知・徳・体をバランスよく育て、知育・徳育・体育の基礎となる食育を推進しながら、国際理解教育、情報教育、防災教育、キャリア教育などの充実をめざしている事が分かります。

ア 確かな学力

平成27年度から「学力向上推進講師」を小・中学校へ配置、外国語(英語)教育に関しては、平成18年度から英語講師を配置しています。新学習指導要領で小学校5、6年生で英語科となり、教科化されますが阿波市では先進的な取組ができていると思えます。

また、タブレット端末やデジタル教科書などICT機器は、早い導入で大変充実し、ICT研究員も配置され教員の研修にも寄与しています。今後とも、学力向上推進講師、英語講師などの人的支援の継続をお願いしたいと思えます。

イ豊かな心の育成

人権教育や道徳を中心に、自然体験や社会体験、ボランティア活動、高齢者や障がい者との交流が各学校で工夫されて実践できていると感じます。しかし、休日における子どもたちの自主的な地域行事への参加が少ないと感じます。

新学習指導要領における道徳の教科化に向けては、学校と連携しながら計画性を持って対応してほしいと思います。

ウ健やかな体の育成

各学校の体力向上計画により成果が上がっていると感じます。各中学校に伝統的な部活動があり、すばらしい成績を収めています。教育委員会が実施する様々な講習会やスポーツ教室、スポーツ大会への参加、スポーツ推進委員派遣事業の成果であると思います。働き方改革で取り上げられている中学校教員の部活動に関する負担軽減のためにも外部コーチの配置なども学校と連携しながら進めていただけたらと思います。

エ食育

給食センターで新しい取組が見られたり、食育や給食関係の活動がケーブルテレビ「ACN」で放送されたりして給食センターが市民の身近なものになりつつあると思います。現在進めている吉野川高校や農業団体との連携をさらに進めてほしいと思います。

オ生徒指導等

不登校やいじめ、暴力、児童虐待などが全国各地で多発しています。阿波市では幼児期の保健相談・発達相談での未然防止と早期支援や小・中学校ではスクールカウンセラーが心の相談に当たっています。不登校問題は「阿波っ子スクール」、生徒指導面では青少年育成センター、警察との連携をさらに強化してほしいと思います。特別な支援が必要な子どもについては、「入園応援シート」「入学応援シート」の活用や実態に応じた学習環境の整備を継続して実施し、安心して入園・入学できるようにお願いします。

カ学校施設の整備

耐震化と大規模改修が完了し、平成27年度には全小・中学校へタブレット端末も導入されました。平成30年度末の完了を目標に「普通教室へのエアコン整備」という計画を前倒しして、平成29年度に工事が行われ、8月から試験的運用ができました。今年の酷暑を考えると大変ありがたいことでした。市場中学校体育館も完成し、施設は大変充実していると感じます。

(2) 社会教育関係

社会教育関係の事業として生涯学習から国際交流まで46の事業が実施されています。ほとんどの事業が総合評価B評価で成果が上がっていると感じました。

①生涯学習

平成19年度から阿波市立図書館が指定管理者制度となり、開館時間の延長と4館の図書システムを統合し、利用者の利便性の向上と資料管理の効率化が図られました。そのことにより利用者も増え、人口1人当たりの蔵書数も県内では上位にあるようです。各図書館で様々な特色ある取組も行われ、市民が訪れやすい図書館となっていると思います。

また、市内に9カ所の公民館があり、生涯学習施設の中心としてそれぞれの公民館で指導員による特色ある運営が行われていると思います。しかし、アンケートによると市や公民館の講座に「参加したことがない」市民が7割です。参加意向については「参加するかどうか分からない」が半数います。講座を実施する曜日や時間帯の希望については、「週末の午前中」を希望する人が多く見られます。広報「阿波」やケーブルテレビ「ACN」による講座開催の案内と参加者募集を続けるとともに、地域資源や人材を活用した魅力的で多様な学習講座の提供をお願いします。

②スポーツ・芸術・文化振興

「市民ひとり1スポーツ」を合い言葉に「スポーツのまち阿波市」をめざし、各種スポーツ事業が実施され、体育館やテニスコート、プールなど施設も充実しています。阿波シティーマラソンへの市民の参加も増えています。さらに参加しやすい種目の設定やボランティアとしての協力など、阿波市民全体で盛り上げる大会となることを願います。徳島駅伝でも阿波市の地道な取組が実を結びつつあります。駅伝への小学生の参加や陸上クラブへの参加者も増えていると聞いています。阿波市から四国大会や全国大会へ出場するスポーツ選手や団体も多くなりました。今年の夏休みには阿波市の中学生がドイツに派遣されたこともスポーツをする子どもたちには励みになると思いました。

芸術・文化振興については、文化協会を中心に様々な団体で自主的な活動が行われています。11月の阿波市文化祭は、多様な芸術文化の鑑賞や日頃の活動の成果を発表するよい機会となっています。色々な行事ができる交流施設アエルワの存在は大きいと思います。

文化財の保存・活用については、文化財や歴史遺産への意識を高めていくため小学校3年生の阿波市内の見学は阿波市を知るよい機会です。地域人材を活用した子どもの頃からの地域への関わりは重要だと考えます。阿波市にある史跡や文化財等を映像などで見られると興味・関心がさらに高まると考えます。

③青少年健全育成

少子化、核家族化などで子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化し、次世代を担う青少年の健全育成は、重要な課題のひとつと考えます。警察・阿波市青少年育成センター等との連携強化はもちろん、「地域の子どもは地域で守る」という、地域ぐるみの協力と地域が子どもや家庭を支援できるネットワークづくりに力を入れてほしいと思います。

④人権教育

様々な人権課題が存在するなかで、さらに国際化、情報化、高齢化等による新たな人権問題も生じています。心のリフォーム学級、人権フェスティバル、人権問題研修会、児童生徒人権作品集の全戸配布など今後とも継続して取り組んでほしいと思います。研修会へ参加しやすいように開設場所・曜日・時間帯の工夫をお願いします。

⑤国際交流

幼稚園、認定こども園での英語活動、平成18年度から小学校への英語講師派遣など学校での国際理解、交流は進んでいると感じます。各町で行っているALTによる英会話教室は受講生が固定化したり、減少したりしているようです。ケーブルテレビ「ACN」で英会話を放送するなどはどうでしょうか。

おわりに

阿波市は教育に予算をかけ、学校施設等も充実していると思っています。これからも、限られた予算の中でいろいろな教育行政に取り組まれると思いますが、この報告書で点検・評価したことが次年度に生かされることが大切だと思っています。また、2020年度の最終目標を念頭に「その年度の重点目標」を設定し、メリハリをつけることも重要だと思います。2020年度は、阿波市の認定こども園の開設年度でもあり、小学校では新学習指導要領の実施年度となります。教育の大きな節目の年度になると考えます。第1次教育振興計画の最終目標が達成できるよう着実な事業の実施をお願いします。

今年も全国で様々な思いもよらない事件や事故、自然現象が起きています。その対応も大切で大事な事ですが、今後も計画を前倒しして「普通教室にエアコンを設置」したような先を見通した教育行政、子どもを中心に据えた教育や市民のニーズに応じた事業の実施を願っています。

役目上、いろいろな意見を述べさせていただきましたが、教育委員会の事業を中心に「あすに向かって 人の花咲く やすらぎ空間・阿波市」のさらなる発展を祈念いたします。

平成30年8月15日

学識経験者 曾川 京子

はじめに

「阿波市第1次教育振興計画（後期計画）」が平成28年3月に策定されました。それによると、阿波市の教育行政の基本理念として「未来をつくる力 たくましく生きる力 郷土を愛する心」をもった阿波市民の人材育成と、「人が輝く まちが輝く 未来が輝く」教育行政の基本目標の実現を目指して、7項目の教育目標のもと、27の推進施策、それらを実現するべく73の主要事業が体系的に示されています。この計画は平成32年度までの5年間、阿波市教育委員会を中心に、行政内の関連部署との連携を緊密にとるだけでなく、国や県をはじめ、庁内外の関係機関とも積極的に連携を図り、最新の知見を生かして、よりよい教育行政をすすめるようとしていることが理解できます。

上記をふまえ平成29年度に実施された全73の主要事業の点検・評価を示した状況報告書が出されました。これは、教育行政の改善充実を図り、効果的な教育行政の推進に資するためのものであるとともに、阿波市民への説明責任を果たす役割をもっています。ここに、一市民としての視点で報告書を拝読し、所見を述べさせていただきます。

1. 点検・評価について

本報告書では、「阿波市第1次教育振興計画（後期計画）」の目標及び基本方針を反映したものとなるよう、平成29年度の73の主要事業を一つ一つ点検し、計画の進捗状況の確認や施策の効果・成果、課題の検証が行われています。このようなPDCAサイクルを確実に実施し、長期的にも短期的にも計画的にしっかりとした教育行政がすすめられていることがわかります。

それぞれの事業ごとにP「具体施策」D「平成29年度事業実施状況」C「事業の評価」A「課題や今後の方針」が評価シート1枚にコンパクトにまとめられており、見やすい形式となっています。また、阿波市第一次教育振興計画（後期計画）における重要施策の業績評価一覧には、46事業の平成26年度の実績値と平成29年度の実績値成果や進捗状況が比較できるように成果指標や数値目標等が示されており、評価の観点として参考になります。数値化に馴染みにくい事業においては、目標や実績に対してできるだけ具体的な文章表現を行うなどの工夫が必要となります。

2. 主な事業の進捗状況について

(1) 学校教育関係

平成32年度から次期学習指導要領が全面実施となります。国際化、情報化が進むこれからの社会でたくましく生きる力をどう身に付けるかを重点課題とした改定です。見直しの重要な視点として「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「子供一人一人の発達をどのように支援するか」を挙げ、教師が一方向的に教えるのではなく児童生徒が主体的・能動的に授業に参加する「アクティブラーニング」が求められています。つまり児童生徒が学校教育の場で様々な体験を通して自ら学べる場（環境）の設定が必要となります。また、小学校での5・6年生の英語活動が正式な教科となり3・4年生での英語活動が求められています。時代に即した改定ですが、これまで以上の入念な授業準備やさらなる教師のマンパワーが必要になるのは必至です。

阿波市ではこうした流れをいち早く取り入れ、他郡市に先駆けて英語講師を配置し、幼稚園教育でも英語講師・ALTによる英語活動を行う等、先進的な取り組みが行われていたところですが、平成29年度は、幼保一元化により認定こども園への移行が進む中、新

たに認定こども園においても5歳児を対象に年間6回と英語活動を増やして、今後は4歳児も対象とする方針を示しています。幼児期から英語に親しむ環境整備を整える進取の姿勢が見られます。小学校教育へとスムーズにつなげていくことで、子どもたちが国際化の中で主体的に生きる力を身に付けることに大きく寄与すると期待できます。

学力向上のための学力推進講師、現在の8名を今後全小学校に1名ずつ配置する方針が示されていること、またICT研究員を各学校に派遣し、タブレットなどの充実したICT機器の活用力の育成で教育の質の向上を図る教職員の資質向上に取り組んでいることもマンパワーアップといえます。ICTによる業務の効率化は教職員の負担軽減となり、児童生徒に向き合う時間の確保と働き方改革にも繋がります。教育の質の向上を目指して人的環境を整備し、牽引・後押しをする教育行政の姿勢は評価できます。

人権教育においては、平成30年度からの道徳の教科化に向け「阿波市いじめ防止対策基本方針」に基づき、各学校でのいじめ防止の取組みの評価はAと成果を上げています。今後も子どもたちが安心・安全に成長していけますように、いじめの早期発見、早期対応、生徒指導体制の確立をさらに推進していただきたいです。

体力の向上には、食、睡眠や体を動かすことに目を向けた良質の生活リズムが大切です。阿波市では地域の特性を生かしたキッズソムリエの育成や地産地消を取り入れた学校給食の実施等、食育にも力を注いでおり、評価できます。このように教育には家庭や地域との連携が欠かせません。社会教育関係との連携を取りながら、特色ある取組みが継続して実施され、様々な体験の場が工夫されており、教育に熱意を持った豊富な人材に恵まれている阿波市のよさだと考えます。しかし、ボランティアの人数がやや減少傾向となっており、A評価はB評価となっています。今後も機会をとらえて連携の重要性を発信し、学校ボランティアに関心を持つ方や専門的力量を持った指導者の育成などを積極的に行い、人材確保、地域資源の有効活用が望まれます。

また、子育てしやすい阿波市として、就学援助の「新入生児童生徒学用品費」の入学前支給を目指すなど、必要に応じて迅速な改善や対応を行う姿勢は評価できます。

学校施設の整備では、今夏の酷暑で命の危険が注目され、全国的には空調設備のない学校が多数ある事などが話題に上っています。しかし阿波市では平成29年度に全ての小中学校への空調設備導入が完了し、時代に即した整備が進められました。これにより子どもたちが快適な環境の中で学習に集中できる環境が整い、ありがたいです。

以上のように新しい時代の流れで要求される先進的かつ多面的で総合的な視点から質の高い教育内容の取組みとともに、それをバックアップする学習環境の整備においても、多大な配慮がなされていることが伺われ、教育に重きを置いている阿波市の教育行政の姿勢は素晴らしいと思います。

(2) 生涯学習

図書館の運営については、町単位で図書館が設置され、大変充実しています。図書館利用者総数や貸出点数は昨年度より減少していますが、貸し出し数は目標冊数を約1万冊上回っており、蔵書数においては豊富で確実に充実しています。各図書館お話し会なども実施し市民が読書に親しみ学びやすい図書館を目指した取組みが多く見られます。今後も生涯学習の拠点にふさわしい充実した運営をお願いします。

生涯学習プログラムの整備・提供も大変充実しています。文化協会、総合地域型スポーツクラブとも連携をもつとともに、講座修了時に受講生対象のアンケートを実施し市民のニーズの反映に勤めるなど幅広い講座の開催に努めています。従って前年度より3講座増え親子対象の講座5講座を含む24講座が実施されました。登録者数も2680人と目標人数を上回っており、広報等も生かされているようです。今後も市民のニーズを探り、地域資源や地域人材を生かし、文化やスポーツの拠点作りとして重要な役割を果たす生涯学習講座として、魅力的で多様な講座の提供をお願いします。

(3) スポーツ振興

総合型スポーツクラブ数や会員数、スポーツ少年団数は平成26年度に比較して増加しています。さらに、市外運動部の合宿受け入れ件数も15件と目標の5件を上回っているなど、市民のスポーツ・運動に対する関心は高いといえます。阿波シティマラソンも市内参加者は若干の減少はありましたが、全参加者は昨年度を上回り、市外でも広く知られる人気の大会として定着していることが伺えます。ウォーキングやランニングなど気軽に取り組めるスポーツの体験を推進するなど、幅広い世代の多くの市民が楽しみながら参加できるようさらに環境を整えていく方針に、「市民ひとり1スポーツ」を合い言葉に「スポーツのまち阿波市」の推進に今後も期待します。

(4) 芸術・文化振興

文化協会との共催事業を実施し市民が芸術や文化に広く接する機会を提供して、芸術・文化に親しむように力を注いでいることが伺えます。生涯学習映画会には1370名もの来場者を迎えています。今後も、市内に多数おられる芸術・文化に造詣の深い方々を指導者として養成し、生涯学習講座での講師や学校教育に携わるボランティアとして貢献していただくなど、活躍の場を広げることをお願いします。

(5) 青少年健全育成

青少年の健全育成は、関係機関との連携による街頭補導回数を増やすなど、学校教育とも連携した健全育成活動を実施しています。このように地域ぐるみ家庭ぐるみの継続的な取組みにより、阿波市の青少年健全育成に寄与できていると評価できます。近年は非行件数よりも不登校や引きこもりの青年の問題や相談が多くなっている状況があるようです。今後の課題としては自立支援活動の推進が望まれます。家庭教育の向上を目指し、親子を対象とした生涯学習講座を増やす等、各種体験活動等関係機関と連携して、今後も魅力ある事業の継続的实施をお願いします。

(6) 人権教育

「心のリフォーム学級」、人権ふれあいフェスティバル、人権問題講演会等、人権啓発への継続的取組みにより人権意識の高揚を図ることは重要です。企業職員人権研修会、ばあわーあっぷ事業の成果等も評価できます。講演会等の参加者数がやや減少していますが、人権教育はこれで十分ということではなく、時代の流れとともにますます人権意識を磨いていくことが大切であると考えます。企画推進にはご苦労が伴うと察しますが、市民が参加しやすい、特に若年層の参加を期待した企画や講師の選定を工夫していただき、さらに人権感覚あふれる阿波市になることを期待します。

(7) 国際交流

学校教育では英語教育の充実が高まっていますが、市民対象の英会話教室は、4地区で開催され市民が参加しやすい工夫がされているものの実績として、参加者の固定化や減少という課題が数年続いています。特に平成29年度は参加者の減少が見られます。これは市民のニーズが低いとされ「見直しのうえ継続」とされていますので、生涯学習講座での教室開催を検討するなど、楽しく効果的な事業として継続実施されることを期待しています。

おわりに

近年の社会情勢の大きな変化は、日本の様々な社会問題として現れており、阿波市においても例外ではありません。今回この報告書を拝読させていただく機会に恵まれ、阿波市教育委員会を中心に、阿波市の地域特性を生かした自立的で持続的なまちづくりを目指した教育施策が着々と進められ、その成果を上げていることを知り、阿波市民として、心強く誇らしく感じました。あらためて、多大な時間や労力を費やし熱心に教育行政に取り組んでおられる教育委員会をはじめ関係者の皆様に感謝と敬意を表します。